

小学校 特別活動 部会

部会長名 香春町立中津原小学校 校長 川上 三千夫
実践者名 川崎町立川崎東小学校 教諭 柳井 文陽

1 研究主題

学級活動（１）の指導と評価の一体化
～育ちの見とりと、指導に生かす「そのつど評価」～

2 主題設定の理由

児童が議題内容を話し合い、判断し、よりよい内容に決定するまでの一連の実践を行うようになるためには、話し合いの経験と判断の基準となる価値観をどのように育てるのが重要になる。それは、学級活動や日常の学級経営において、常に価値ある行為や活動の意義を取りあげて、そのつど言葉による評価（賞賛）を繰り返し行うことで浸透していく。そしてこのような評価は価値基準や意義の深さをおさえた指導を繰り返し行うことが重要になる。また、その繰り返しの評価により、児童が議題内容を考え判断を行う際の価値基準を明確にさせる。「この内容ではどうか」と議題を話し合い、決定する時、児童は、その内容がもつ価値や意義を発達段階（学年）に応じて吟味し、判断していくことになる。

また上述の内容は、以上児童の価値観と判断基準を育てていく上で、指導に生かす「そのつど評価」を行うことにより、学級活動（１）の指導と評価の一体化が図られると考えた。

3 主題の意味

（１）指導に生かす評価の一体化（見とりとそのつど評価）とは

学級会の最中、教師は助言を行うことが指導の中心になり、評価活動の主たる場面は、終末に行われる教師の話になる。ここで、児童の発言や態度を具体的に取り上げ、価値づけ、評価内容を児童に返すことが肝心である。また、発達段階や学級会の経験値に応じて、発言の仕方やリアクションの取り方、枕の付け方（つなぎことば）等を、機会を捉えて教師がそのつど取りあげ、価値づけた指導をすることも重要になる。評価の一体化とはこのような児童の発言、反応への見とりと価値づけを繰り返すことであり、その見とりと「そのつど評価」が、学級会での考え方や表現の仕方を深化させ、思考・判断・実践への確かな育ちを促すことになる。

4 研究の目標

学級会において指導と評価を一体化させるには、話し合い活動のオーソドックスなスタイルを毎週の学級会に定着させる必要があると同時に定期的に必ず実践する必要がある。特に、児童が「こんな学級にしたい」という願いをもち、みんなで話し合い、実践に移す学級活動においては、正しい価値観に裏打ちされた学級経営と、学級内に支持的風土が醸成されていることが絶対条件である。そのような条件のもと、学級活動（１）

における学級会での教師の指導と評価の一体化の在り方を究明する。

5 研究仮説

学級会での話合いの進め方を計画委員会に指導し、基本的な話合いのスタイルとして年間の学級活動の話合いで定期的実践し、話合いの各場面で、価値ある発言や行動を「そのつど評価」していけば、その話合いの経験の積み重ねが、学級内の諸問題に目を向けることができる児童が育つであろう。また学級会が、児童自らが諸問題を議題として取り上げるにより自発的な話合い活動へと発展するとともに児童が、自らの話合い経験を生かしたり、生活経験から考えたりして、自分自身の言葉で思いを伝える言語活動にも寄与するであろう。

6 研究の計画

(1) 【議題発見への関心・意欲を育てる】

児童は、まず自分たちの問題として、今、学級に何が足りないのか？何が必要なのか？ということをつらなければならない。しかし、子どもたちの議題発見力は、学級活動経験値の差によって、大きく違いが生じる。そのため、学級活動の基本を発達段階に応じて指導し、理解させなければならない。それと同時に児童の内面に、そのことに目を向け、何とかしなければという積極的な関心や意欲を喚起させなければならない。

(2) 【関心・意欲の芽を育てる】

上述のような実践的な関心や意欲を喚起するためには、日頃から学級の諸問題を意識できるように意図的、積極的に児童へのアプローチを行い、児童の内面に関心・意欲の芽を育てなければならない。それと同時に、児童自らが議題を発見したと思えるような後支えや仕かけ、そして教室環境も必要になる。これらの指導を心がけ、クラスの問題、私たちの問題としての議題が取り上げられ高く評価することで、議題発見への芽が育っていく。

(3) 【解決の考え方】

学級会での話合いの先にあるものは、算数的な明確な答えではなく、友だちの思いや考え方を伝え合いながら生まれる学級みんなで作る一つの《考え》である。学級会では、マイナス方向の意見だけを出し続けても解決にもならない。友だちの考えを肯定的に捉え、プラス思考でよりよいものを作りあげようとする態度が大切である。そのことが結果的に折り合いをつけて話し合うことに繋がる。

(4) 【決定のよりどころ】

学級みんなで作って決めていく場面で、よりどころとなるのは、学級みんなで作った学級目標であり、それに裏打ちされ、計画委員会でじっくりと話し合われた提案理由が大切になる。中でも、朝の会や帰りの会の中で、常に学級目標を意識したためて作りや振り返りを指導しておくことが大切である。

7 指導の実際【第15回学級会（指導案）】

(1) 議題 「卒業への取組みを考えよう」

(2) 議題選定までの経過

① 議題が決定するまでの経過（議題設定の理由を含む）

これまで、児童は、過去にクラスで起こった人間関係上のトラブルを学級全体の問題として意識しながら、それらを乗り越えていくために、学級目標として「ケンカのない HAPPY な毎日を送り、弱い心に負けない強い心をもった学級 NO 1 6-1」を掲げた。そして、学級会や学級集会活動の企画・実践を通して、自分たちの手で様々な諸問題を解決し、学級内の人間関係をよりよいものへと醸成させてきた。特に、前学年までの学級会の経験の少なさもあって、初めて自分たちの力で計画・実践する喜びを大いに感じている様子であった。学級会の進め方のノウハウを身につけた子供たちは、自主的に係活動を活発化させ、放課後の時間を使ってクラス全員参加で楽しめるようなイベントを数多く行ってきた。また、10月に開かれたスポコン大会では、このイベント活動に縄跳びの練習を約二ヶ月間ほぼ毎日取り入れ、練習の成果もあって過去最高の320回を記録することができた。それぞれの取組みはすべて、子供たちからの議題ボックスへの提案があって行われており、一・二学期で主体的に自分たちの学級生活づくりをすることができつつある。

そして、二学期の終わりに、議題ボックスに新たに様々な議題案が数多く提出された。その議題案を計画委員会で、大きく2つに分類した。「6年生最後なので思い出に残るようなイベントがしたい（思い出づくり）」「前の6年生がやってきたようなお世話になった東小学校への感謝の気持ちを表す取組みをしたい（学校貢献）」の大きく2つである。これは、6年生である自分たちに残された学校生活の時間があとわずかであり、卒業したら離ればなれになってしまう友達がいるので最大の思い出作りがしたいということと、6年生として後輩のために自分たちができる取組みをして、卒業式を迎えたいという大きく2つの思いがあって提案されている。

本時の学級会「卒業への取組みを考えよう」は、それを児童自らの手で企画立案させ成功させていくことが学級の子供たちの思いや願いを実現させていくうえで、非常に重要であると考え、議題に決定した。

② 児童の実態

本学級の児童は、男子10名、女子12名、計22名の大変元気で明るい学級である。また、男女の仲もよく、何事にも真面目に取り組む雰囲気のあるクラスである。

しかし一方で、些細な喧嘩が原因で、激高してしまう児童が多く、以前の学年の時に、クラス内での人間関係上のトラブルが原因で、授業中にクラスを飛び出す児童がおり、授業が中断してしまうことが何度かあった。6年生の最初にクラス全員にとった「スタートダッシュだ！新学期」のアンケート調査の結果でも、そのことを不安に感じているという内容の記述をした児童が約半数近くいた。また、激高していた本人も、6年生になってこの課題を解決したいとアンケートに自ら書い

ていた。更に本学級の児童は、5年生までの間「学級活動」にかかわる数々の話合いや実際の活動を自分たちの手で計画・実践してきていなかった。だからこそ6年生になってから、学級活動とはどのような時間であるか、学級会の進め方について教え、実践を繰り返していった。また、学校全体のために高学年として活躍し、友達同士でお互いのことを考え、お互いに謝恩の言葉を掛け合うことを繰り返し教えた。

一・二学期の学級会で議題に取り上げられた内容は、「係活動について話し合おう」「学級目標を決めよう」「お楽しみ会の王様ドッジのチームを決めよう」「音楽ダンス部（係）のイベントについて決めよう」「クラスの仕事の役割分担を見直そう」「ハロウィンパーティーの内容を決めよう」などであった。6年生が小学校生活最後の一年間であり、また中学校で離れてしまう友達もいるため、子供たちの意識の中に、「クラスの間人間関係をよくしたい、思い出を作りたい」という強い思いがあり、係活動を中心に放課後にイベントを行うことによって、クラスの友達との絆を深める学級の集会を繰り返し行ってきた。また、毎日の帰りの会や、その集会の終了後には必ず振り返りの活動を行い、集会の準備・実践の中での、友達への「光る言葉・行動見つけ」による児童相互の賞賛を行ってきた。その結果、「〇〇さんが、学級や委員会の仕事を見えないところでもがんばっていてとても素晴らしいと思いました。わたしも、〇〇さんを見習って頑張っていきたいと思います。」といった他の友達が気付いていない友達の努力・頑張りについての発表があったり、「〇〇くんが、算数の時間に分かりやすく勉強を教えてくださいました。そのおかげで自分は勉強がとてもよく分かりました。〇〇くんありがとう。」「〇〇さんが、困っている人がいるとすかさず自分のことより相手のことを優先しているのがすばらしいと思いました。」という友達への優しさ・思いやりについての発表があったり、それに対して「ありがとうございます！」といった反応があったりするなど、お互いの頑張りを認め合ったり、友達への感謝の気持ちを伝えたりすることが多く見られるようになった。

このような活動を繰り返し行うにつれ、次第に人間関係の変容が起こり、どの子とどの子をペアにしても問題ないくらいに、過去の間人間関係の悪化の問題が改善されてきた。また、授業中、学習の得意な児童が率先して苦手な児童にサポートしたり、その児童が発表すると自然と拍手が起こったりするなど、支持的風土の素地も一人一人の心に育ってきた。二学期末にとったアンケートの結果から、学級内での人間関係上の問題はほぼ解消されたとほぼ全員が答えていたし、当事者の児童も、相手の子との人間関係が良くなったと日頃の会話の中でも話題に出すくらいに良くなってきている。また、児童会活動や委員会活動の取組みを通して、高学年としての自覚も高まりを見せ、下学年に対して優しく関わる姿も非常に多く見られる。

話合い活動においては、6年1組の児童は、友達の話を最後まで聞くことや、反対意見を述べる ときには「枕」をつけたやわらかい表現を使いながら友達が意見を受け入れやすいような話し方をすることについて身につけることができてきた。児童一人一人の思いがのびのびと語られ、そしてお互い「よさ」を認め合うことができる学級集団を目指し現在活動中である。

③ 指導にあたって

○ 事前

二学期後半に入ってから、折に触れて教師が、前の六年生の三学期の取組みについて話題を出したり、そのときの制作物や写真などの具体物を見せたりすることで、意図的な『しかけ』を行ってきた。また、これまでの学級会や学級集会活動のふり返り活動をその都度行わせ、「クラス全員でできたこと」と「これからの課題」を共有させてきたことによって、児童が三学期への見通しを持ち、一人一人がどのような三学期を過ごしたいかという思いを強められるように配慮した。

そのような『しかけ』を行った後、二学期の終わり頃、議題ボックスへ、「6年生最後なので思い出に残るようなイベントがしたい（思い出づくり）」「前の6年生がやってきたようなお世話になった東小学校への感謝の気持ちを表す取組みをしたい（学校貢献）」という大きく2つの議題案が投函された。これは、6年生である自分たちに残された学校生活の時間があとわずかであり、卒業したら離ればなれになってしまう友達がいるので最大の思い出作りがしたいということと、6年生として後輩のために自分たちができる取組みをして、卒業式を迎えたいという大きく2つの思いがあって提案されていたものであった。

本時の学級会「卒業への取組みを考えよう」は、それを児童自らの手で企画立案させ成功させていくことが学級の子供たちの思いや願いを実現させていくうえで、非常に重要であると考え、クラス全員の承認を得て、議題として決定された。

○ 本時

本時の学級会「卒業への取組みを考えよう」の柱①「何をするか」の話し合いで、提案理由をよりどころにし、相手を意識しながら、内容を決定する話し合い活動を展開して欲しいと願っている。また、柱②「二学期のふり返りと卒業までにする取組みのいきごみ」では、一人一人が①で決まった取組みへの意気込み（思い）を語り、学級全体がベクトルを一つにして取組みを進めていけるように志気を高めて欲しい。そのために、児童が事前に自分の意見を持って話し合いに参加できるように、議題、提案理由、めあてを書き込んだ学級活動ノートに、自分の考えを簡単にメモしておくように助言しておく。また、なかなか意見を持っているのに発言するのが苦手な児童に対しては事前に教師が声かけをしたり、議長や周囲の児童が発言を促したりすることにより、一人一回は発言できるようにしていきたい。

○ 事後

本学級会終了後は「卒業への取組み」への活動をより効果的に素早く活動するために、具体的な活動場面や時間を考えながら、そしてどのような「卒業への取組みに」にするのか具体的にイメージを持たせてから実践に取り組みさせることにする。また、本時で決定した内容は、各係での話し合い活動を行い決定していきたい。その後、それぞれの活動のプロジェクトチームを作り、より具体的な活動計画を立てさせるようにする。このような授業設計を行うことにより、児童が、よりよい人間関係を築いていこうとする自主的・実践的な態度を身に付けることが

できるようにするとともに、集団の一員という確かな実感と満足感を味わわせるようにつないでいきたい。

(3) 目標

- 高学年としての自覚と責任を持って、相手のことを思いやりながら意欲的に温かい人間関係を形成していこうとする。 **(関心・意欲・態度)**
- どんな「卒業への取組み」にするかを考えた学級活動の中で、友達と自分の考えや思いを比べながら議題決定に向けて積極的に発言したり、先行経験を生かした自分たちの知恵を出し合って活動内容を決定し、めあてを意識して内容を考えることができる。 **(思考・判断・実践)**
- 議題を決定していくための話合いの手順が分かるとともに、「卒業への取組みを考えよう」の学級活動が学級・学校生活の向上と児童会が目指してきた楽しい学校づくりにつながることを理解できる。 **(知識・理解)**
- 発表する友達の考えと自分の考えを比べながら聞き、自分の考えを積極的に友達に伝えることができるとともに、話合いを通して、お互いに理解し合うことができる。 **(伝え合う力にかかわること)**

(4) 指導計画

① 事前の活動

児童の活動	教師の指導と援助	日 時
① 計画委員会を開き、議題について話し合う。	・議題ポストの投函された議題案を比較して、そのなかから議題としてふさわしいものを選定させる。(議題にとりあげられなかったものは、その他の解決方法で対応させる。)	1 2月17日 パワーランチ 昼休み
② 帰りの会で議題を提案、承認を得る。	・提案理由をより具体的に詳しく提案し 話合いの議題内容がよく伝わるように 助言する。	1 2月18日 帰りの会
③ 計画委員会を開き、学級会での話合いの柱を決定する。	・話合いの柱を決める。 ・卒業への取組みの内容を考える ・二学期のふり返りと取組みへの意気込みを考える ・役割分担の仕方 etc	1 2月19日 昼休み 1月9日 パワーランチ
④ 計画委員会を開き、話合い活動計画を立てる。	・話合いの柱について再度検討し、45分の時間を意識した活動計画を立てるように助言する	1月9日 昼休み

⑤ 議長グループ・計画委員と でりハーサルを行う。	・話合いの流れを予想して、対処の 仕方を十分に考えておくように助 言する。	1月10日 昼休み
------------------------------	---	--------------

② 本時

I 本時のねらい

- 「卒業への取組みを考えよう」の話し合いの柱①と②について考える中で、友達と自分の考えや思いを比べながら議題決定に向けて積極的に発言したり、めあてを意識して内容を考えることができるようにする。 **(思考・判断・実践)**
- 議題を決定していくための話合いの手順が分かるとともに、学級生活の向上と子ども達が目指してきた楽しい学級・学校づくりにつながることを理解できるようにする。 **(知識・理解)**
- 発表する友達の考えと自分の考えを比べながら聞き、自分の考えを積極的に友達に伝えることができるとともに、話合いを通して、お互いに理解し合うことができるようにする。 **(伝え合う力かかわること)**

II 指導上の留意事項

- 本時学級会の提案理由、めあてを意識した理由付けができるように、一人一人が自分の意見を持って話合いに参加させる。
- 児童が自主的な活動内容を逸脱しそうな場合は、適宜、適切な指導を行う。
- ※ 上記のように、ねらいにかかわる視点をもちながら活動を見守り、「先生の話」の中で今後の活動実践がより意欲的になるように、児童の頑張りやよさに着目した評価を行う。

事後においては各プロジェクトチームの成果を発表し合う中で、個人の光る言葉・行動をみつける相互評価活動を継続させる。

学級・学年全体で取り組んだすばらしさを認め合い、所属感や自己効力感等がより強く感じられるように、常にポジティブな評価活動を行いたい。

III 児童の活動計画（授業当日に内容を記入した活動計画を配布）

IV 評価

① 個人の変容に関する評価

- 事前に提示された話合いの内容に、自分なりの意見をもって参加し、はっきりと自分の思いを主張することができたか。 **(関心・意欲・態度)**
- 自分の考えや思いと他の考え方を比べながら、議題決定に向け積極的に発言したり、自分の役割に責任をもって議事を進行することができたか。 **(思考・判断・実践)**

② 集団の変容に関する評価

- 話合いの適切な場面で、先行経験を生かした議題決定に向けての知恵や発言

がみられ、自分たちの力で協力しながら進め、集団決定することができたか。

(知識・理解)

- 発表する友達の考えと自分の考えを比べながら聞き、自分の考えを積極的に友達に伝えることができるとともに、話し合いを通して、お互いに理解し合うことができたか。
(伝え合う力にかかわること)

③ 事後の活動予定

児童の活動	教師の指導と援助	日 時
<ul style="list-style-type: none"> ・ 決定した内容をいつ行うかカレンダーを使って計画を立てる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全員で協力して進めることと、時間配分に視点をあてるように助言する。 	1月15日
<ul style="list-style-type: none"> ・ 決定した内容ごとに役割分担を行い、プロジェクトチームを発足させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動原案を参考にして書くように助言する。特にそれぞれの活動の意義を盛り込むように留意させる。 	1月16日～3月上旬
<ul style="list-style-type: none"> ・ 昼休みや放課後、そして学級活動の時間に、それぞれの役割ごとに原案を作成し活動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一人の「よさ」が生かせるような役割りをするように助言する。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動日当日、各プロジェクトチームごとに自分の役割を果たす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成果を報告し、お互いの活動を認め合えるように相互評価を行う。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動後の振り返りをその都度行う。 		

本時活動展開計画【計画委員会が本時学級会の事前活動を行う際に指導する内容】

第15回 学級会の計画 平成31年1月11日(金) 第5校時	
議 題	○卒業への取組みを考えよう。
提 案 者	○ ()
提案理由	○一学期はケンカが多かったけど、二学期になってケンカが減ったし男女ともに自分たちのかべを乗り越えてきたから、残りの44日間の私達の課題はみんなが大人になっても記憶に残るような思い出を作り、後輩たちに東小の校風を残すことで悔いのない学校生活を送りたいから。
め あ て	○聞く人に聞こえる声ではきはきと8の字を使って発表する。

<p>話し合いの柱</p> <p>○二学期のふり返りと卒業までにする取組みへのいきごみ。 ①何をするかを定める。 ②二学期のふり返りと卒業までにする取組みのいきごみ。</p> <p>役 割</p> <p>議 長 () 副議長 () ノート書記 ()</p> <p>黒板書記 () () () 提案者 ()</p>	
主な活動内容	教師の指導・援助等と本時の留意点
<p>1 はじめの言葉</p> <p>2 議題の確認</p> <p>3 提案理由の発表</p> <p>4 めあての確認</p> <p>5 話し合い</p> <p>①何をするかを定める。 ②二学期のふり返りと卒業までにする取組みのいきごみ。</p> <p>6 決まったことの発表</p> <p>7 今日の評価</p> <p>8 光る言葉と光る行動</p> <p>9 活動をふりかえって</p> <p>10 先生の話</p> <p>11 議長からの評価</p> <p>12 終わりの言葉</p>	<p>・議長グループに大きな声ではっきり短い時間で行えるように助言する。</p> <p>・大きな声で報告できるように助言し、練習を促す。</p> <p>・事前に個人案を学級会ノートにメモしておき、めあてを意識した理由付けや、質疑ができるように助言する。</p> <p>・議長グループには、時間を意識して話し合いを進めるように助言する。</p> <p>・ノート書記に本時の話し合いを簡潔にまとめて、わかりやすくみんなに伝えるように助言する。</p> <p>・友達や自分のよさを認め合う視点で行わせる。</p> <p>・活動をふりかえっては、時間がない場合、学級会終了後に書くようにさせる。</p> <p>・今後の活動実践がより意欲的になるように、児童の頑張りや「よさ」に着目した積極的な評価を行う。</p> <p>・計画委員のがんばり、意見発表にがんばった児童や発表の仕方に気をつけた児童に対して賞賛を行い、以後の活動への意欲を喚起したい。</p>

8 研究のまとめ

(1) 【実践と振り返り】

この学級会の後、卒業に向けての取組みについてのやることリストを作成するとともに、準備の役割分担を行った。また、それぞれの取組みごとにプロジェクトチームを発足させてみんなで協力して進めていこうという雰囲気もできている。

(2) 【特に評価した内容】

指導と評価の一体化を取り入れた学級会を繰り返し行っていくにつれ、児童が次第に教師の価値基準を理解することができてきた。それにより多くの意見に対して、自分の考えをはっきりと主張できるようになってきた。また、友達の出した意見に対して、よりよい学級を築こうと、さらに価値が高いものを求めて話し合う姿勢と、多様な意見を受容する支持的風土の育ちも見られるようになった。今回の学級会の取組により、学級内における課題であった人間関係上の課題も大きく改善しよりよいものへと進化させることができた。特に、子ども達一人一人が、自己中心的な考え方から、クラス全員を思いやる考え方ができるように変化してきた点に大きな意義を感じた。

8 成果と今後の課題

本学級会では6年生なりに価値や意義を考えながらよりよい学級生活をつくろうと話し合う児童の育ちを数多く見とることができた。これは今までの学級会で、発言内容や考え方を見とり、そのつど評価し、児童に価値づけて返しながら育ててきた思考・判断実践の育ちそのものであると考える。考えられる課題は、このような学級活動(1)の取組みが、熱心に取り組んでいるクラスとそうでないクラスとの温度差が大きくあることであり、常に全校的視野に立ちながらいかに他のクラスの学級活動(1)の取組みを活性化させるかが今後の課題である。今後も児童の育ちを見とり、後支えしながらさらに高みへと誘う評価活動を展開しながらよりよい学級・学校づくりを目指していきたいと考えている。